

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名 ナノデス・アキュライン 6	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.456	△RG 0.045	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

テストボール

フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離
3 3/4 インチ

番

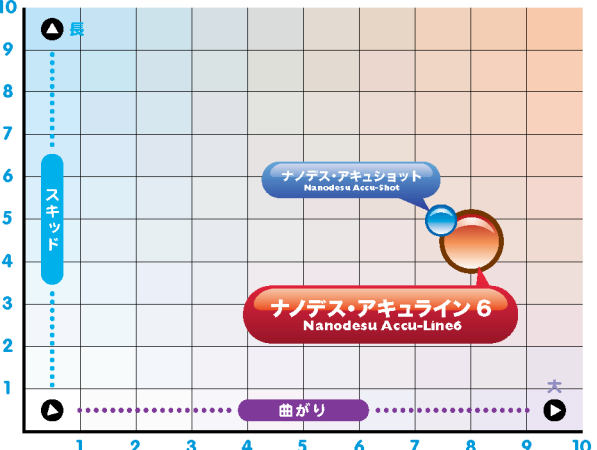
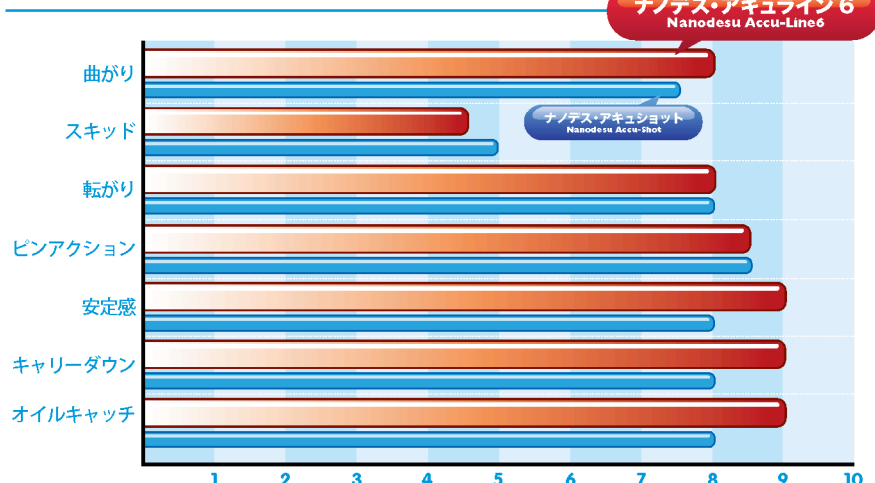
比較対照ボール：ナノデス・アキュショット

フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離
3 3/4 インチ

番



ボールの評価

シリーズ最大のキャッチ力とアグレッシブな曲がり。その為のコアとカバーストックのマッチング。
 現在キャッチ系カバーストックの代名詞でもある、スキッドとキャッチの両立。今回のアキュライン6は初代アキュライン以来のポリッシュ加工においても歴代最大のキャッチ力を持ち、曲がりからピンアクションに至るまで国内外を問わず最高峰の性能でここに発売致します。

開発コンセプトに見合うだけのカバーストックテストを幾度となく繰り返し、抽出されたカバーストックはAVEX MAXX。オイル上で粘り強く、キャリーダウンにも強いカバーストックはドライゾーンでは歴代最高のキャッチ力を魅せます。テスト期間中、国外のHighパフォーマンスボールとの比較投球もしてきましたが、引けを取るどころか同等かそれ以上のパフォーマンスも確保できています。リアクションイメージは大きなねじれ感を得るために新開発されたBOLTコアの性能も十分に発揮され、まずミッドエリアでの曲がり方向が見え、そこからフリップ感と角がでるリアクションの中間のイメージでピンヒットまで駆け抜けます。角が出すぎてもタップの原因になるし、フリップ過ぎても原因となるでしょう。私自身このアキュライン6のリアクションは「飛ぶエリア」のイメージであると思っています。

もちろん初代から受け継がれている衝撃吸収コアシステムも採用されています。

実際投球されて今までの性能の差を感じてください。必ずや武器となる名機となることでしょう。

特記事項

新開発のAVEX MAXXは粘り強いキャッチと爆発的なキャッチ力を生み出しています。対応コンディションはミディアムヘビーで多くのファンに支えられるボールだと思います。